

第 38 回 大阪市都市景観委員会 会議要旨

- 1 開催日時 平成 26 年 2 月 24 日（月）午前 9 時 00 分～午前 11 時 15 分
- 2 開催場所 大阪市役所 7 階 第 6 委員会室
- 3 出席者
（委員） 澤木 委員長、阿部 委員、岩田 委員、下村 委員、高崎 委員、中嶋 委員、
橋寺 委員、福田 委員
（大阪市）河合 建設局管理部路政課長
（事務局）角田 開発調整部長、山田 都市景観担当課長、大倉 都市景観担当課長代理

4 議 題

デザイン性の高い（デジタルサイネージ含む）広告物による
まちなみの魅力向上に向けた検討について

5 議事要旨

（委員からの主なご意見及び事務局の回答等）

- 各デジタルサイネージのタイプごとのメリットについて、街頭ビジョンならば戦略的な都市のランドマークやアイデンティティづくりができるとか、交通インフォメーションだと、もっとインタラクティブな、ヒューマンなスケールで、双方向のメリットがあるとか、にぎわいをつくるんだったら、インドアビジョンが続いてもいいんじゃないかっていう細かいメリットを整理して、そのメリットがどういう場所にふさわしいのかを検討した上で、どこにどういうものを許可すべきか判断してゆく必要がある。
- 災害時の情報が提供できるというメリットについて、実際に停電してしまった場合でも効果が発揮できるような無停電装置等の仕組みや、事業者側で、災害モードに切りかえらるといった仕組みの検討が必要。
- 言葉がわからない海外からのお客様が来られたときの情報発信になるというのは、非常に大きなメリットなので検討が必要。
- 誘導といったときに、つけてもいいという話だけだと、景観的イメージの最終形までの中途段階で、非常に不整形な景観ができてしまう可能性がある。したがって、もっと積極的に誘導する、最終形を考えた上でつけてくださいという誘導も検討していく必要がある。
- 低層部、中層部、高層部と分けられているが、大体どれぐらいの高さなのか。
⇒低層部は、1階もしくは2階の少し下部ぐらいまで、中層部は3階以上で大体30メートルぐらい、8階なり9階ぐらいを考えている。
- デジタルサイネージの種類や設置位置でモデル地区を絞っているのか。
⇒街頭ビジョンは、上、中層部に設置が見込まれるので、設置可能性のある場所は、主要ターミナル駅周辺エリアと、まちなみに多様性のある商業エリアと、二つに分類している。駅周辺は大阪駅と難波駅のとこ

ろで、商業エリアは、御堂筋の沿道型のところを検討している。中層部への設置は、周辺のまちなみに対して影響が大きいので、地域として、ある程度大きさとか表示方法とかコンテンツをルール化した上でそれに基づいて行政側と協議するという仕組みを考えている。

その他のタイプは低層部で、ある程度大きさ等を、まちなみを誘導するような協議基準を定めてやっていく方向だが、設置する場合には、いずれにしても行政との協議を必要とし、第三者の先生方の意見も踏まえながら協議していく形を考えている。

○物理的な配置や大きさ等も、地域全体で事業所が協働してやれば、エリアのイメージを持ちながらの誘導が可能であるし、上映されるコンテンツについても、統一性のあるものにすることが可能になるので運用面も含めて景観向上につながる形で検討するようにすべき。ある程度、まちづくりの組織がしっかりしているところから始めるのがよい。

○個別の広告だけ見たら、いいと思える場合でも、連帯するとんでもないものになってしまうという可能性もある。なので、個別の協議を始める前に、エリアのイメージを、事前に決めておく必要がある。

○まちなみに多様性があるところをモデルに選んでいくのは難しいことだと思うが、なぜ選んだのか
⇒現状ある程度商業集積があって、にぎわいが出ているところをベースに、そこと折り合いをつけながら、プラスになるようなものを誘導していきたいと考えている。

○モデル地区を選定する際に、将来の方向性も視野に入れて、定量的な基準等最初に条件設定して、事業者等に声かけする必要がある。

その際に、魅力創的に理屈づけをして選ぶ場合もあるし、多様性がある中で課題が出そうなどころ予防的に誘導する、課題解決的な側面も地区選定には含まれることを示し、選定根拠を明らかにしていく必要がある。

○一定期間、例えば3年とか5年間を通じて検証して、だめだったらサインージは禁止する、それに合意を得た上で参加してくださいと最初からやらないと後戻りが難しくなるので注意が必要。

○デジタルサインージの設置にかかる基準値を決めるときに、最大面積を定めるだけでなく、間口との率についても考えたり、奥行きや、前面が公開空地なのか、ただの空地なのかも含め、ちぐはぐした制度にならないような工夫が必要。

○音量については、環境基準に最低限乗せた上で、その対象物のデシベル値もあるし、環境騒音も含めたデシベル値もある。輝度も、最近では特にLEDで指向性が強いので、斜めから見のではなくて、正面から見たときというのが一番マキシマムになるので、基準をきちっとつくっていく必要がある。

○デジタルサインージの消し方について、何時になったら消しましょうとか、残すとしたらこの程度を夜中じゅう残そうとか、消し方についても考えておくべき。

(まとめ)

デジタルサイネージのすぐれた特徴や、設置するとした場合のそれぞれの地域、あるいは建物の低層、中層、高層といった設置位置、それによるメリット、デメリット等を整理し、対象をはっきりさせる必要がある。

また、運用するとした際の具体的、定量的な基準や地域組織での協議ができるかどうか等、実際の運用を含めた想定の中での意見等を踏まえながら次回以降取りまとめ案を作成していく。